

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第4回保育園・学校部会」 会議録

日時 平成29年11月9日 午後5時

場所 地域交流センター 第3・4研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)  
宮川裕満(学校組合教育委員) 高坂 徹(筑北中学校長)  
清沢 剛(筑北中学校教頭) 宮下智恵美(筑北中学校教務主任)  
福田弘彦(麻績小学校長) 北條泰瑞(麻績小学校教頭)  
鳥海 康(麻績小学校教務主任) 臼井孝夫(麻績保育園長)  
刈間伸一(麻績小学校PTA会長) 小山芳道(筑北中学校PTA会長)  
教育委員会事務局 飯森 力(教育長) 臼井太津男(教育次長) 尾和正行(主事)

## 1 開会

**教育次長**：定刻となりましたので、これから第4回保育園・学校部会を始めさせていただきます。よろしくお願いたします。なお、この部会につきましては傍聴可能となっております、傍聴の方がいらっしゃいますので、ご理解いただければと思います。それでは、部会長あいさつをお願いいたします。

## 2 部会長あいさつ

**部会長**：あらためまして、こんばんは。前回は、講演会並びに打ち合わせ会お疲れ様でございました。講演につきましては、教育次長さんに館報の中でまとめていただいておりますので、一部を読ませていただきます。(館報より一部を抜粋して説明)

その後の打ち合わせ会、分散会も充実しておりました。子どものために取り組んでいらっしゃる皆さんの具体的な提案がされていたと思います。本日は、その内容を部会の皆さんで共有し、何からスタートできるか等具体的な話し合いまで出来ればと思っております。よろしくお願いたします。

### 3. 協議事項

**教育次長**：それでは、協議事項に入りたいと思います。協議については部会長に進行をお願いいたします。

#### (1) 前回の部会(9/22)及び

10/12 開催の「保小中一貫教育連絡会」と分散会の再確認

##### **部会** (9/22)

- ・ 前回の部会の議事録確認について
- ・ 保小中一貫教育連絡会の開催について
- ・ 検討委員会(部会)の情報公開と、保護者等地域の声の把握について
- ・ ICT活用教育について

##### **一貫教育連絡会** (10/22)

- ・ 県教委 教学指導課 佐倉主幹より講演
- ・ 講演終了後、分散会において協議(7つの分散会)

**部会長**：それでは、事務局から説明をお願いします。

**教育次長**：まず、今回の会議資料の確認をさせていただきたいと思います。

(配布資料の確認)

前回のまとめにつきましては、次第に項目ごと載せさせていただきました。特に、講演につきましては一般の方の参加も少数ではありましたがございました。分散会におきましても小中学校での内容の摺り合わせや情報交換ができました。分散会のまとめ役の方、資料の作成等ありがとうございました。簡単ではありますが、以上で前回の再確認の説明を終わります。

**部会長**：配布資料と前回までの会議について、何かご意見等ございますか。よろしいでしょうか。それでは、次の協議事項に移ります。

#### (2) 分散会の報告について

「分散会としての方向性について」

「30年度4月からスタートできること」

**部会長**：それでは、事務局より説明をお願いします

**教育次長**：お願いします。ここでは、講演会の後に行われた各分散会でのまとめを説明していただいて、それについての協議をしていただきたいと思います。

**部会長**：それでは、1番からお願いします。

**委員**：それでは、学力向上についてのまとめを説明させていただきます。

細かい内容については資料を見ていただければと思いますが、この場で協議をいただきたいところについて説明させていただきたいと思います。これからは麻績の子がそのまま筑北中学校に上がるという事になりますので、麻績小学校でのやり方をそのまま筑北中学校でできるようになりますので、それを生かす方向を考えた方がいいという事が1番の話題になりました。

この事について、分散会で挙げたものとして、「学級会のやり方」。小学校で出来ていれば改めて中学校で指導する必要は無いという話がありました。「朝の会」や「帰りの会」も共通していくことも可能かと思いました。

こういう事ができてきますと、2番目として「教科学習」という部分でもある程度の一貫性を持たせることはできるのではないかという意見も出されました。例えばですが、ノートの取り方や家庭学習の共通化。良い悪いでは無く、できるかどうかというところで話は出ました。

今後、どのように進めていくかという事で、私の方で考えた(案)ですが、1案としては「教科の一貫性を重視して考える」というところはどうかと考えました。良いところを取り入れてやっていると良いと思いますが、これをやるにはかなり負担が掛かるとも思います。小中で一貫性を持たせるためには教科ごとに小中の職員が連携して行う必要がありますので、それぞれの教科会が必要になると思います。

2案としましては、学力向上の分散会メンバーが5人いますので、その中でできることをしようということです。このメンバーだけで進

める場合、教科の特性を取り入れるという事は難しくなりますので、できるところを提案していくことになると思います。

私としては、学力向上を考えるのは全員で行う方がいいと思いますので、1案がいいと思いますが、とりあえずは今のメンバーで出来るところから提案して行ければと思います。提案はしていきますが、それが良いのかどうかは職員全員の意見が大事になりますので、どうやっていくのか、どう集約していくのかが必要になると思います。

**部会長:** それでは、ご質問等ございますか。

**委員:** もし可能であれば、中学校で課題であると感じている事として、生徒の文字が薄くて小さいということがあります。小中連携委員会でも出させていただきましたが、文字を書くという事は非常に大事な事ですので、小学校の時から文字をはっきり大きく書くということと速く書く力というのも学力に関係してきますので、こういう面を一貫してやっていくことも大事じゃないかと思います。

2つ目は、学習面というよりも学校全体になるかと思いますが、お便りをお便り袋に入れて保護者に渡す、保護者からのお便りを学校に提出する等の「物の管理」を小さい頃から徹底してやっていただけると中学としてもありがたいです。

3つ目は、「保護者負担」ということで学習に必要な教材です。例えば辞書ですが、小学校でも中学校でも国語の辞書の斡旋があったり、中学1年生では英語の辞書の購入を勧めるということがあるのですが、そういったことの連絡も取り合えるといいと思いました。

**部会長:** ありがとうございます。その他にご意見ございますか。

**委員:** 先ほどの話の中でありましたが、保育園でも筆圧が弱いという事があります。このことについては、その子の特性という事も踏まえて保育士の中でも話し合いがされています。お便りにつきましては保育園の場合、本人の判断という事はあまりありませんので、小学校等につながるにつれて少し変化があるのかなと感じました。

**部会長:** その他にご意見ございますか。

**委員：**これから一貫教育を進めていく訳ですが、分散会の中でも学力向上、学習の進め方というところが中心になると思います。色んな意見が出た訳ですが、これからの流れとして、この部会で色んな意見を出していただいて、それを基に小中学校の現場で意見を共有する必要があると思いますので、この部会のようなことを小学校、中学校それぞれでやっていかなければいけないと思います。本当に出来るのかどうかを職員で話し合ってもらって時間を取ってもらって、話し合いをして、意見を吸い上げてから分散会を行うという流れになると思います。例えば、「麻績村学習スタンダード」というものを試行で来年の4月から保小中でやっていき、3年掛けて練り直して作っていくという事で良いんじゃないかと思います。先生によっては、自分の持ち味というものがありますが、最低限のところは揃えていく必要があるのです。例えば長野県では「授業の始めに学習課題を書きましょう」というのがありますが、実際やらない先生もいますので、そういうところでまず統一して、担任の先生が替わっても変わらないスタイルでできるということが子どもたちのためになる部分もあると思います。そういう視点で「どこまで統一をするか」を小中の教員の中で練り上げる事が小中一貫の本質的なところだと思いますので、スモールステップでやっていって、少しずつ練り上げていくことが大事だと思います。

**部長：**ありがとうございました。今、内容的なご指摘をいただきましたが、先ほど最終決定はどうするのか、スケジュールはどうなるのかという話についての回答的な内容になる提案だと思います。先生方の個性・持ち味を生かすという点からも各学校で検討したものをこの部会で提案していただき、さらに学校で検討していただくというような方法で4月から行えるように進めるという提案でした。

**委員：**補足としてもう1点、学力向上からの提案で「教育ノートの取り方」がありましたが、教科ごととなると間口が広くてカバーできなくなってしまうと思いますので、そういう点は先送りして、とりあえずは全教科に共通するところから取り組んでいかないと難しいと思います。

**部会長**：色々な問題が出ておりますが今後の進め方として、学校、PTA、教育委員会それぞれで関わる場所を持ち帰っていただいて検討し、この部会に提案していただくということでスケジュールについてはよろしいですか。

**全員**：(了承)

**部会長**：それでは、学力向上から提案された2つの案の1案として教科ごとの検討が出されましたが、それについては関連してご意見ございますか。

**委員**：資料を見させていただいて、教科ごととなるとすぐにはできませんし、複雑になってきますので、まずは全体で共通できる場所を確認して徐々に肉付けしていくという方法で、意思統一が出来るものから取り組んでいくということが大切かと思いました。

**部会長**：ありがとうございます。具体的な案というものはありますか。

**委員**：授業の進め方というものが中心になるとと思いますが、授業の約束(共通ルール)の全てという事は難しいと思います。出来る場所は保育園、小学校、中学校で出来るかと思います。家庭学習も発達段階という部分もありますが、場合によっては一貫してというところも出てくるのではないかと思います。

**部会長**：その他にご意見ございますか。

**委員**：「これは」という部分は決めてもらって、先生方の持ち味は存分に生かしてもらった方が子どもたちにも個性や持ち味があるので、アレンジが出来るようにしておいた方がいいのではないかと感じました。

**部会長**：ありがとうございました。それでは、少し詰めていただいてまた次回ご提案いただきたいと思います。それでは、2番お願いします。

**委員:** 小中を通して付きたい力は、英語力と異文化への関心・異文化コミュニケーション能力を育てたいという事です。まずは、始められるところからやっていきたいと思いますという事で「中学校で行っていることを小学校へ少しずつ広げていく」という話が出されました。

1つは、小学校6年生の2学期の中で文化祭ですが、今まで小学校の児童の皆さんが来るのは運動会のところだけでしたが、その前のところで中学校では英語ステージがあるので、中学へ行ったらこういう事を勉強するというところも見てもらえればという意見がありました。

2つ目は、小学校6年生の3学期の中で中学校から小学校への出前授業ということで、昨年英語の授業を小学校で行っていますが、中学の先生も子どもたちの様子が分かりますし、子どもたちも中学の授業の様子を知ることができるので、ぜひ今年も英語で出前授業をお願いしたいという意見がありました。

3つ目ですが、中学校で行われる中学説明会の時に、小学6年生と中学1年生が合同で授業を行っていますが、また一緒にできることが可能であればという意見が小学校からありました。

4つ目は、筑北中の1年生の2、3学期の中で国際交流会ということで信州大学から留学生の方を呼んでいます。7月に呼んでいて、今度は11月にも呼び、3学期もうまく都合がつけば呼びたいと思っています。折角、麻績まで来ていただくので例えばですが、午前中は中学校、午後は小学校に訪問して英語だけでなく、英語以外の言語にもふれあって、色んな国の言語や文化に親しむ活動に広がっていくと良いと考えています。

5つ目ですが、小学校5年生の2学期の中で異文化理解活動ということで今回ALTが新しくなりました。中学校では、ALTの出身がアメリカということでプレゼンをお願いして作っていただいています。中学の英語科の職員の方で「こういうことが日本人にとっては目新しく興味深い」ということをALTに伝えて、今度小学校に行った時に発達段階を意識して、より分かりやすい英語や体験的な活動を踏まえてプレゼンに生かしてもらったらという事をやっていければと考えています。

**部長:** ありがとうございます。何かご意見等ございますか。

**委員:** 小学校の子どもたちにとって英語への興味・憧れは高いと思います。中学に入って教科になって「覚えなきゃいけない・やらないといけない・書けなきゃいけない・聞かなきゃいけない・話せなきゃいけない」となってしまうことが「中1ギャップに繋がる・英語に対する苦手意識に繋がる」という事になりかねないので、英語に親しむという機会を行事や楽しむことを含めてやっていただけることは大変ありがたい事だと思います。

もう1つとしては、やはり中学校の負担が大きくなってしまいます。小学校で教科の専門性がある職員が中学に入ることができれば釣り合いは取れると思いますが、どの程度できるか調整をしていかないと長続きしていかないと思いました。

**部長:** ここで論議してもというところがありますので、直接話をさせていただいて検討をしていただいて、相談することが出ましたら教育委員会の方へ相談していただきたいと思います。その他にご意見等ございますか。

**委員:** 小学校の4、5、6年生は、ほぼ毎週英語の時間がありますし、1、2、3年生も英語の時間はありますが、保育園はどうなのでしょう。

**委員:** 保育園として英語は取り扱っておりません。年長さんで2名、英語の塾に行っているということがあります。

**部長:** その他にございますか。

**委員:** 早い時期からの英語はとても大事だと思います。小さい頃から何か英語や外国語にふれあうという事は良いことだと思います。学校間でどちらかに負担があるということは出ると思いますが、ぜひお願いしたいと思います。

**部長:** ありがとうございます。その他にご意見等ございますか。

**委員:** 英語教育に関しては、筑北村での取り組みが参考になると思います。



筑北村の保育園・小学校・中学校の英語教育をコーディネートしている方が聖南中学校におります。小学校では、担任の先生とコーディネートの先生、ALTの先生と3人体制で英語の授業をしています。小学校で英語授業となると担任の先生も何をどうすべきか困ってしまうこともあると思いますので、将来的に村で予算化してもらって、英語授業をコーディネートする方を確保してもらえればと思います。

**部会長**：その点について、教育長さんご意見いただけますか。

**教育長**：非常にありがたい提言をいただきました。前向きに検討していきたいと思います。

**部会長**：その他にご意見ございますか。

**委員**：おみ図書館でも、県の国際交流員の方に来ていただいて、国際交流のイベントが予定されております。学校教育以外にも社会教育の中でも参加していただければ外国語への興味や憧れといった部分の根付きにもなると思いますので、よろしく願いいたします。

**部会長**：今のイベントの予定は1月9日におみ図書館で予定されております。この部会のメンバーに案内状が出るようにお願いできればと思います。国際交流として留学生やホームステイのような話は出ていないですか。

**委員**：思っている方はいるかもしれませんが、話は出ておりません。

**部会長**：その他にご意見等ございますか。

**委員**：小さい時に英語等の外国語に親しむと小さい時の方が吸収できるので、楽しみながらやっけてもらえると良いと思いますので、保育園の時から何らかの形で教育していくということが大事だと思います。

**部会長:** ありがとうございます。この分散会では英語教育ということだけでなく、国際的な文化コミュニケーション能力をどうするかという部分も含んでおります。色んな意見が出ましたので、さらに詰めていただければと思います。それでは、次に3番お願いします。

**委員:** ICT教育の分散会の報告をいたします。育てたい力は「交流学习を基盤としてICT活用によるコミュニケーション能力と学び合う力」になります。筑北中学校におきましては資料にあるとおり実施されているという訳であります。今回の分散会につきましては、実際に小学校の先生に電子黒板やデジタル教科書を活用したデモンストレーションをしていただきまして、その後に話し合いを行っております。

小学校につきましては、各学年にICT機器が揃っておりまして、加えてWi-Fi環境も整っております。ですが、活用については統一されておりませんし、先生全員がICTに精通しているという訳ではございませんので、ICTを活用することが負担になってしまうということも懸念されます。そのような点から外部から専門的な知識を持った支援員の設置が望ましいという意見も出ました。先生方も異動等がある中でICTの活用を繋げていくということは難しい部分があります。

児童生徒用のパソコン整備については平成26年度に小中学校共に更新しております。次回の更新まではまだ時間がありますが、今後の更新としまして、ソフトの統一や連携を行いながら整備をして小学校から中学校へスムーズに繋がられる仕組みづくりが必要だという意見もございました。

活用という中で、発表をする力をつけるにあたりパワーポイントの使いこなすということが今後は大きくなっていくのではないかと思います。また、子どもたちの主体的な学びとしてアクティヴ・ラーニングが進んでおります。

ICT活用教育アドバイザーの派遣事業第1回目が11月17日に行われますので、平日の昼という事で学校の先生方にはご迷惑をおかけしますが、アドバイザーの先生と一緒に現状の把握を行いながら、「専門の支援員の設置」「一貫したICT教育を行う上でのビジョンや目的の明確化」「環境整備の方向性や留意事項」というところを3

つの柱として検討していきたいと思っております。その中で ICT 機器の整備や活用方法、先生方の研修体制の整備等が必要となってきます。それらは、情報化推進計画といったところに繋がっていくと思います。ICT 活用教育アドバイザーの派遣は今年度 3 回実施する予定です。

**部会長**：まずは、ICT 機器や支援員の設置といったことですので、予算が関わることだと思いたいますが、何かご意見等ございますか。

**教育長**：先生方への ICT 機器の活用指導が出来る方を週に 1 時間でも取ればというところを検討できればと考えております。

**部会長**：子どもたちの前に立ってという事では無く、先生方にボランティア等の方に来ていただいてご指導いただくという事ですか

**教育長**：タブレット等の機器は揃っておりますので、機器をうまく活用できる方向で考えています。

**委員**：支援員の方がいればというところが最終的に出来ればと思いますが、今は現状の中で考えて進めていけるところを考えていければと思います。

**委員**：折角ある機材を活用出来ないという事はもったいない事ですので、先生方にも使いこなせるということを学んでいただければと思います。学校で活用の仕方は変わってくると思いますが、そういうこともぜひお願いしたいと思います。

**部会長**：その他にご意見等ございますか。

**委員**：活用に関連しまして、筑北中学校のところにネットモラルという言葉があります。小学校としてもそこが弱い点だと感じております。ICT 機器の活用を進めていく上で正しい使い方ということもやっていかなければいけないと思いました。

**部会長**：正しい・安全な使い方。大事にご指摘をいただきました。その他にご意見等ございますか。

**委員**：以前、タブレットの使い方についての職員研修を行いました。その研修でタブレットを使うことは出来るようになったのですが、自分の授業でどのように使うかということは分からない先生が多いので、村が中心となって小中学校の先生に授業でどう使うかの研修を行ってもらえれば、もっと先生方も ICT を身近に感じて活用して行けるようになると思います。

**部会長**：その他にご意見ございますか。

**委員**：この前、教育委員会の研修会で南相木だったと思いますが、小学校で海外とテレビ電話でやり取りをして、最終的にはホームステイを行っているという話がありました。麻績でもそういうことができないのかと思いました。ホームステイとなれば村からの補助ということもお願いしたいところではありますが、時間帯が同じようなオーストラリア等のところでやり取りができたらいいなと思っています。

**部会長**：発展的なご意見をいただきました。この会では将来的な視野を持って検討していきたいと思います。その他によろしいでしょうか。それでは、4番お願いします。

**委員**：お願いします。まず、小中学校の先生方と話をする中でお互いの学校でどんなことをやっているかということがあまりよく分かりあえていなかったということで、学校のことを知ることができて大変参考になりました。資料をご覧いただいて麻績小学校ですが、学級文庫は1～4年生での活動、読書週間や図書館まつり、読書旬間というのは全校で取り組んでいることになります。読書習慣の定着についても低学年、高学年で違いはありますが定着を図っていくという事でした。

筑北中学校の方も同じように年間を通して朝読書や読み語りを全校でやっているということ。また、4月でしたら学習センターの使い方、5月の読書週間の内容が書かれています。国語の授業については資料

に書かれているような内容であることと調べ学習として行事の事前学習が行われていることがまとめられています。

分散会の話の中で話題になったこととして、本を使って自分で調べることが必要じゃないかということで、今はインターネットで検索すれば分かってしまうのですが、自分でじっくりと調べて理解していくには本の方が良いという意見が出ました。9年間あるいは12年間を通して育てたい力として、まずは保育園の頃に本に親しんで小中学校それぞれでテーマを決めて自分で本を選んで読んで調べてそれを発表・発信するということが力になっていくのではないかという話になりました。小学校で行ったことを中学校に繋げていくということで生きていくのではないかということです。また、何かを調べて学習することで表現する力が育てられて心豊かでたくましい子どもになるのではないかということでした。

目指す子ども像をどうするか迷いましたが、麻績村の教育計画の中に「ふるさと麻績村」を愛し、心豊かでたくましい子どもとあったので、読書活動を通じて目指す子ども像に近づいていければという話になりました。

**部会長：**目指す子ども像の話が出されましたので、また後でふれたいと思いますが、今の説明の中身についてご意見等ある方お願いします。

**委員：**おみ図書館の方でも保育園に入る前の子どもにファーストブック等の活動もされているので、おみ図書館が保・小・中を一貫してやっていたいでいるので、一緒に連携しながら取り組んで行くことでより充実した読書指導が出来るかなと思います。

**部会長：**司書の先生が入っていますので、おみ図書館の計画もここに位置づけていけるとと思います。その他にご意見等ございますか。

**委員：**保育園でも本に親しむ、本を楽しむというところから行っているところでもあります。はらぺこあおむし等のボランティアによる読み聞かせも毎週来ていただいているので、今のところ本に親しむというところが進んでいるのではないかというところでもあります。

部会長：その他にご意見等ございますか。

委員：今まで聞いてきたテーマの中で「読書指導」というテーマが1番関わることが出来ることだと思いました。読書に関しては親も子どもと共通に話が出来るところかと思います。おみ図書館は地域の方も一緒に利用できる場所なので、図書館を使う形というのも問題になることもあります。うまく活用することが大事かなと思います。

部会長：保・小・中だけでなく地域との連携についてご意見いただきました。他にご意見ございますか。目指す子ども像についての話がありましたが、関連したご意見ございますか。

委員：目指す子ども像ですが、できれば早く出していただかないと保小中の職員が目指すべきところがはっきりしないので、意見は出尽くしているのでは、まず目指す子ども像をはっきりさせていかないとはいけません。

部会長：それでは次回、このことを大きな議題としたいと思います。それでは先に進みます。5番お願いします。

委員：ここでは、体育の関係で体力向上、養護教諭を中心とした保健・健康と栄養士・栄養教諭の関係の食育についてになります。保育園から小学校、中学校を通して繋げていける内容が多いところだと思います。体力向上では5年生が新体力テストを行うというところの情報共有して課題の改善や良さを伸ばすということを考えていければという話がありました。

保健・健康ではノーテレビノーゲームデーやゴー・ゴー歩こうデーを一斉に取り組んでいければということと9年間を通しての成長の過程を学び合ったり、課題を掘り起こしていくということの意味があるのではないかということ。

食育では、先ほど生活習慣や学習習慣という話がありましたが、食に関する習慣も保育園からの一貫した食事のマナーや準備や片付けを共通していくことで統一した指導が出来るということを大事にしたいという話がありました。また、給食の試食として、年長の園児

と保護者が小学校の給食を試食したり、小学校 6 年生が中学校の給食の試食をしたりすることでギャップになるところを緩やかに出来るのではないかということ。また、それぞれのところで年間計画が作られるのですが、情報を共有したり、9 年間を見通した年間計画を作成することで、難しい点はあると思いますが、良さを生かすことは出来るという話でした。

**部会長**：専門分野の方が連絡を取り合っているというので、かなり進んでいると思います。何かご意見等ございますか。

**委員**：健康教育ということで、9 月に信州大学に行くことがありまして、今年度中に連携協定を信州大学と結ぶ流れになると思います。中身としては、子どもたちの肥満傾向に焦点を当てて、家庭を合わせて支援していくことになると思います。来年度からは実際に具体的な部分が進んでいくかと思います。各機関で行われている健診結果をデータベース化したものを年間を通した中で活用して、子どもと家庭を支援していくというものになると思いますので、よろしく願いいたします。

**部会長**：その他にご意見等ございますか。

**委員**：特別な支援がいる子ども、みんなと一緒にやりたいのだけれどできない子ども、子どもの心の健康というものも大事になると思います。体に合わせて心についても検討していただけるとありがたいと思います。

**部会長**：子どもたちに対する配慮。これはすべての分散会に関わることだと思いますので、よろしく願いします。それでは、次に 6 番お願いします。

**委員**：お願いします。育てたい力として「ふるさと麻績村を愛し、貢献する人材(地域の担い手)の育成。「夢」に向かって「志」を持ち、21 世紀の社会を逞しく生き抜く力の育成です。内容については、下の表にあるとおりですが、その中の意見として、小学校の学校みどりの

日を縦割り・異年齢集団で行っていて意義のあることだと思いますが、毎年同じ場所に行くので、坂井小学校では1、2年生は修那羅神社、3、4年生は冠着山、5、6年生は四阿屋山か小仁熊ダムと青柳宿を隔年で行っているということなので、そういうことも良いのではないかという意見が出されました。

また、情報交換する中で重なる行事がいくつかあることに気づきました。例えば、福祉交流活動や善光寺街道、消防署見学等です。発達段階が違うので、質は違ってくると思いますが、同じことの繰り返しは避けたいという意見もありました。総合的な学習・キャリア教育についてですが、「ふるさと学習」として位置づけて深い学びにしていきたいという意見がありました。先生方の得意分野になってしまう傾向ありますので、それで学びが深まれば良いのですが、麻績村としては1本筋の通った「ふるさと学習」があると目指す力を育てていきやすいという意見が出ました。また、なんでも学校でやるということでは無くて、社会教育への移管を行うことで職員の負担も減りますし、ボランティアの方の力も付くので、どちらにもメリットがあると思います。

**部会長**：それでは、ご意見等ございますか。

**委員**：先生方の負担っていうのは非常に大きく、大変だと感じています。先生方の負担の軽減のためにも外部の専門家、社会教育の必要性を強く感じました。また、小学校、中学校で重なる行事については検討して、幅の広がった教育をお願いできればと思います。

**部会長**：その他にご意見等ございますか。

**委員**：今年度、海の学習に行かせていただいて、やはりお金が掛かるということを感じました。これから人数が減っていくので、今と同じ内容を行おうとすると将来的には個人負担が倍ぐらいになると考えられます。ここで、一覧が出てきましたので、どこで何を行うのかを検討する時期なのかと感じました。また、見直しをどこかでしていければと感じました。



**部会長:** キャリア教育だと思いますが、10歳で2分の1成人式、中学校では立志式を行っていただいておりますが、話題にはなりませんでしたか。

**委員:** 話には挙がりましたが、ちゃんと位置づいていませんので、先生によって行わないということがありますので、こういうところで位置づけることも必要かと思いました。

**部会長:** あまりしっかりと位置づけてしまうとマンネリしてしまうことも考えられますので、それについても配慮いただければと思います。その他にご意見等ございますか。それでは、7番お願いします。

**委員:** お願いします。カラー刷りでは無いので、分かりにくいかと思いますが、薄い矢印が現在行っているもの、濃い矢印が将来的にできそうなことであります。児童会・生徒会として行っている「あいさつ運動」や「読み聞かせ」は小学校、中学校で行っておりますが、保育園へも繋げていける場所ではないかという意見が出ました。また、片方向だけで行っているものを双方向で出来ないかという意見も出ました。給食の紹介等はお互いに出来そうだという意見やみづき交流は両方で出来ないか、地域の美化活動は一緒に取り組むことは出来ないかという意見が出ました。こういった連携を図りながら、児童会・生徒会としては任された仕事を責任をもって行うことで心を育てる。また、他の人や地域のために取り組むことで、麻績村をよりよくしていこうという心を育てたいという意見が出ました。

**部会長:** 何かご意見等ございますか。

**委員:** 保育園としては、ノーテレビノーゲームデーは一緒に取り組むことは出来ますが、その他は学校の皆さんが行うことに協力するという受け入れは出来ると思います。

**部会長:** 児童会・生徒会の関係ですので、一体型施設であれば子どもたち同士でかなり進む部分もあろうかと思いますが、担当の皆さんご苦労いただきますが、お願いします。それでは、これを各学校での話し合いで具体的に位置づけられるものを確認していただいて、それを

次回に持ちあげて来年度の計画に入るといふことでどうでしょうか。

**委員：**( )の方も分散会に入っていて、分散会に2つ入っている方もいらっしゃるので入っていて行っていただければと思います。

**部長：**それでは、次回に話し合っただいたことをここで話し合うといふことでお願いします。それでは次に移ります。

### (3) 地域住民の意思の反映について

**部長：**何かご意見ございましたらお願いします。

**委員：**まだ、確定ではありませんが、麻績小学校の参観日の日に村長から「懇談会を開きたい」といふ話をいただいております。その中で、保・小・中一貫教育について、私たち保護者もほとんど分かっていないのが現状ですので、そういった話が出来ればといふことを考えております。日程としましては11月22日に参観日がありますので、それに合わせたものになります。

**部長：**中学校の方ではどうですか。

**委員：**麻績村で行いたい「一貫教育」を「一貫校」といふ勘違いをしている保護者もかなりおります。多少なり、中学校の方にもアナウンスをいただきたいといふ話がありました。まとまらずに終わってしまいました。

**部長：**一方的な公表では、伝わりにくくなってしまうので、保護者の皆さんの意見を聞ける機会等は大事だと思いますし、お互いに意見を伝えることでより伝えることができると思います。

**委員：**そうですね。保護者が直に自分の口で意見が言える機会といふのは非常に大事だと思います。そうやって意見をお聞きする中で進めていくといふことで良いと思います。

**部会長**：それでは、教育長何かございますか。

**教育長**：皆さん、一生懸命に考えていただいてありがたく感じております。  
その中で可能であれば、研究検討委員会の全体会を開きたいと考えております。その時に保育園・学校部会の内容もお伝えいただきたいと思います。平成30年度に反映できる部分というものを皆さんにお聞きしたいと考えております。ある程度の部分については、事業ヒアリングの中で繋いでおりますが、全体会の中で色んなご意見をお聞かせ願えればと思います。できるだけ早めにお願ひできればと思いますが、12月17日が麻績村の村長選挙になりますので、その後の開催を考えておりますが、12月中から1月の始めまでの開催を考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

**部会長**：それでは、次回までに事務局では人間像をまとめていただいて、各学校では分散会を職員全体でやっていただいて来年度から実施できるものの洗い出しをしていただきたいと思います。

#### 4 次回開催日程

平成29年12月19日(火) 17時30分～

**部会長**：それでは、閉会を教育次長お願ひします。

#### 5 閉会

**教育次長**：長時間にわたりご協議をいただきましてありがとうございました。  
以上で第4回保育園・学校部会を閉会いたしますありがとうございました。